

第8章 整備基本計画

第1節 ゾーニング計画

1. 地区区分の設定

甲府城跡がもつ価値を将来へ確実に継承するための保存整備を行い、地域のシンボルとして存在感を高め、まちづくりへの寄与を目指すための整備方針を検討するために、甲府城跡及び城下町の特徴的な構成要素によりゾーニングを設定した。(『史跡甲府城跡整備基本計画』第3章第2節参照)。

なお、計画対象範囲は史跡指定地とするが、本来の城域は史跡指定地外にも広がっていることから、指定地外の範囲についても史跡甲府城跡と一体のものとして捉え、整備の基本的な考え方を示す。

甲府城跡の本質的価値の保存と顕在化を図るための整備については、往時の甲府城の構造や規模等を正しく理解した上での検討が必要である。このため、まず、計画対象範囲である甲府城の中核域を「内城エリア」、これを取り囲む堀の範囲を「内堀エリア」、愛宕山石切場跡の範囲を「愛宕山石切場エリア」とする。また、指定地外については、甲府城の中核域及び埋め立てられた堀の範囲を「城郭エリア」、城の外側に形成された城下町区域を「城下町エリア」として位置づけるが、これら全てを一体として捉え、その価値を確実に保護すると同時に史跡甲府城跡を核とした魅力的な空間の創出を目指していく。

甲府城の中核となる内城エリアは、遺構の性格や現在の利用状況等を考慮して設定した地区区分(『史跡甲府城跡保存活用計画』第3章第2節参照)を踏襲し、各地区における整備の方向性を検討する。

ゾーニング区分		
指定地内	A 内城エリア	A①ゾーン：天守台・本丸 A②ゾーン：二の丸 A③ゾーン：稲荷曲輪 A④ゾーン：数寄屋曲輪 A⑤ゾーン：鍛冶曲輪
	B 内堀エリア	B①ゾーン：水堀の範囲 B②ゾーン：埋め立てられた堀
	C 愛宕山石切場エリア	Cゾーン： 愛宕山石切場ゾーン
指定地外	D 城郭エリア	D①ゾーン：清水曲輪、屋形曲輪、楽屋曲輪、 花畑
		D②ゾーン：埋め立てられた堀
	E 城下町エリア	E①ゾーン： 甲府城下町のうち、武家地の範囲
		E②ゾーン： 甲府城下町のうち、町人地の範囲









■各地区の概要

ゾーニング区分			説明		
指定地内	内城エリア	A①	天守台・本丸	城郭の中核部であり、地形上は最高位にある。天守台を最頂部とした階層的な縄張り構造や、築城期の石垣が良好に残されるなど、史跡の本質的価値が目に見える形で良好に保存されている。また、発掘調査では石切場跡も確認されている。現在、鉄門が復元整備されており、銅門は礎石が遺構表示されている。	
		A②	二の丸	A①と同様に城郭の中核部であり、地形上は中位にある。築城期の石垣が残存するなど、甲府城の全体像を理解する上で重要な場所である。舞鶴通りにより曲輪が分断されており、曲輪本来の姿は失われている。現在、内松陰門が復元整備されている。	
		A③	稲荷曲輪	本丸を東から北にかけて取り巻く曲輪であり、城の中位にある。曲輪内には、多門櫓、稲荷櫓、煙硝蔵などがあった。曲輪の東側には築城期の石垣が良好な形で残されている。現在、稲荷櫓、稲荷曲輪門が復元整備されており、煙硝蔵や井戸などが遺構表示されている。	
		A④	教寄屋曲輪	稲荷曲輪の南側にある、これより一段低い曲輪である。教寄屋表門、教寄屋勝手門や教寄屋櫓などがあったが、現在は教寄屋櫓の土台が残っている。また、発掘調査では石切場跡も確認されている。曲輪の東側には築城期の石垣が良好な形で残されている。	
		A⑤	鍛冶曲輪	本丸・二の丸の南側にあり、地形上は低位にある。現存する水堀に接している。米蔵・味噌蔵・番所があったほか、江戸時代後期には勘定所が置かれた。また、発掘調査では石切場跡も確認されている。現在、鍛冶曲輪門が復元整備されており、井戸や石組水溜が遺構表示されている。	
	内堀エリア	B①	水堀	内城を画する重要な遺構である。水を湛えており堀としての史跡景観が唯一残っている場所である。	
		B②	埋め立てられた堀	内城を画する重要な遺構であるが、地下には本質的価値である石垣等の遺構が保存されているが、埋め立てられており、本質的価値が顕在化されていない。	
	愛宕山石切場	C	愛宕山石切場跡	甲府城で使った石材を切り出した場所と考えられている。地下には遺構が保存されている。一般に公開されていない場所である。	
	指定地外	城郭エリア	D①	清水曲輪、屋形曲輪、楽屋曲輪、花畑	清水曲輪・屋形曲輪・楽屋曲輪・花畑等の範囲。江戸時代初期までは清水曲輪に、江戸時代中期には屋形曲輪に藩主の居所が置かれていた。楽屋曲輪には江戸時代前期までは温泉が存在したと考えられ、江戸時代中期の絵図には、書院や能舞台、金蔵などが見られ、政庁の中心地であった。花畑は江戸時代中期に増設された曲輪である。地下には本質的価値である石垣等の遺構が保存されているが、現状は市街地化が進み、史跡の本質的価値は可視化されていない。
			D②	埋め立てられた堀	内城を画する重要な遺構であり、地下には本質的価値である石垣等の遺構が保存されているが、埋め立てられて現状は市街地化が進み、史跡の本質的価値は可視化されていない。
城下町エリア		E①	武家地の範囲	甲府城とセットで城郭都市を構成する。市街地化により、本質的価値は顕在化されていないが、武家地や町割り等に関する遺構が多く埋蔵されていると考えられる。	
		E②	町人地の範囲		

2. 地区別整備方針

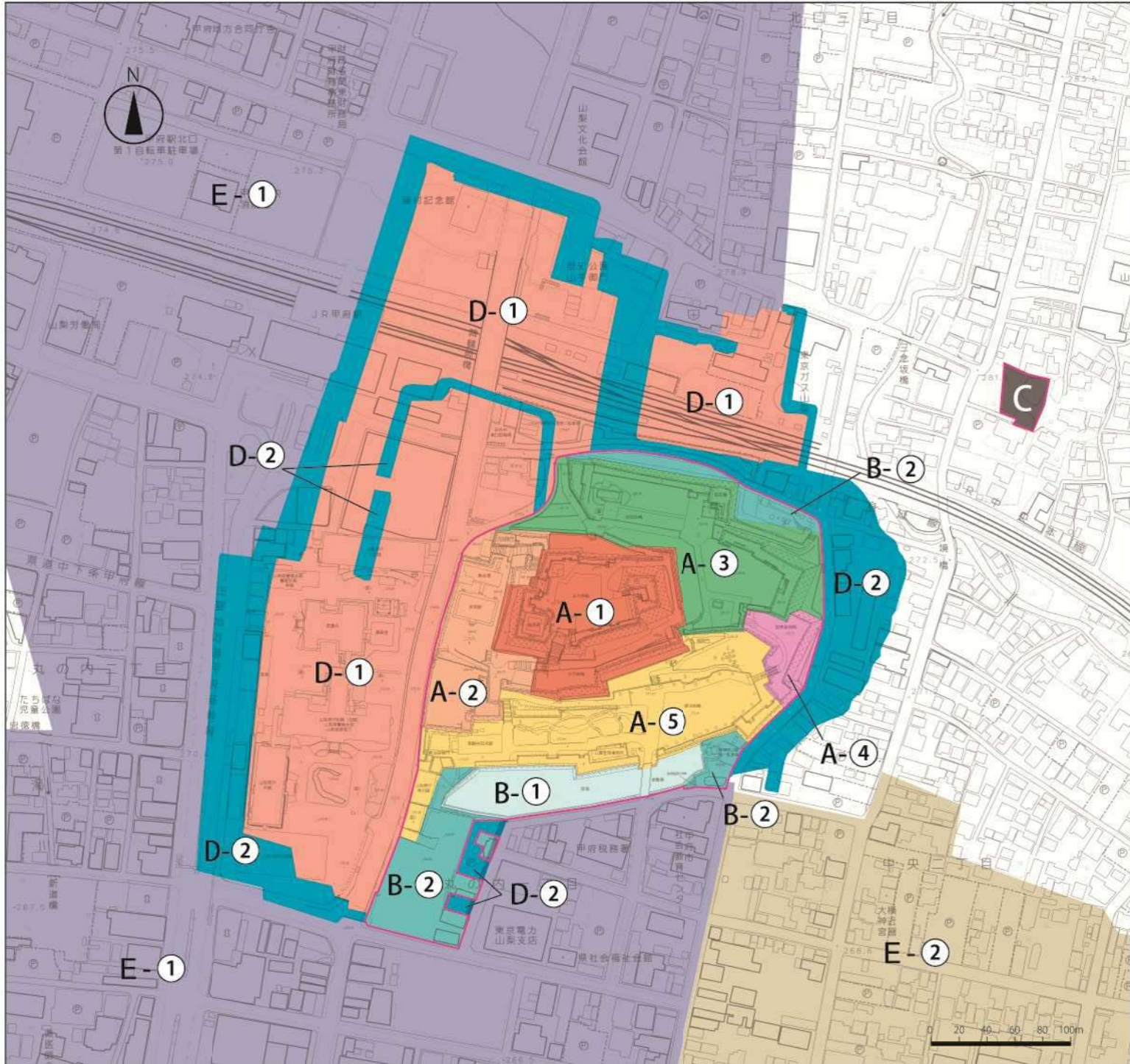
各地区における遺構の性質や現在の利用状況、課題等を踏まえた整備の方針を次に示す。

〈指定地内〉

A 内城エリア		B 内堀エリア	
	:① 天守台・本丸		:① 水堀
	:② 二の丸		:② 埋め立てられた堀
	:③ 稻荷曲輪	C 愛宕山石切場エリア	
	:④ 数寄屋曲輪		: 愛宕山石切場跡
	:⑤ 鍛冶曲輪		

〈指定地外〉

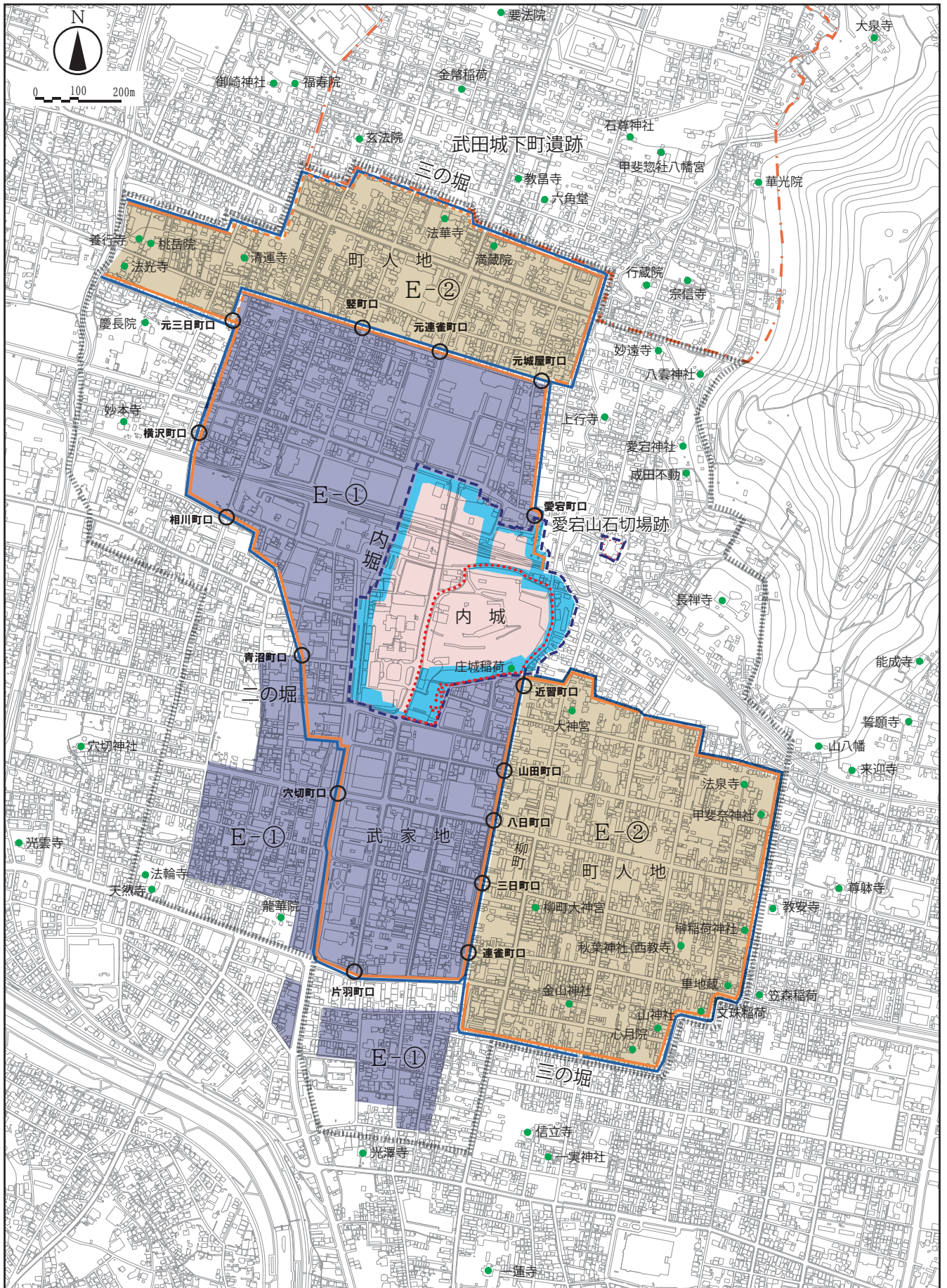
D 城郭エリア	
	:① 清水曲輪、屋形曲輪、 茶屋曲輪、花畑
	:② 埋め立てられた堀
E 城下町エリア	
	:① 武家地
	:② 町人地



 : 史跡指定範囲 (計画対象範囲)

ゾーニング図 1 (計画対象範囲)

(計画対象範囲は、史跡指定範囲)

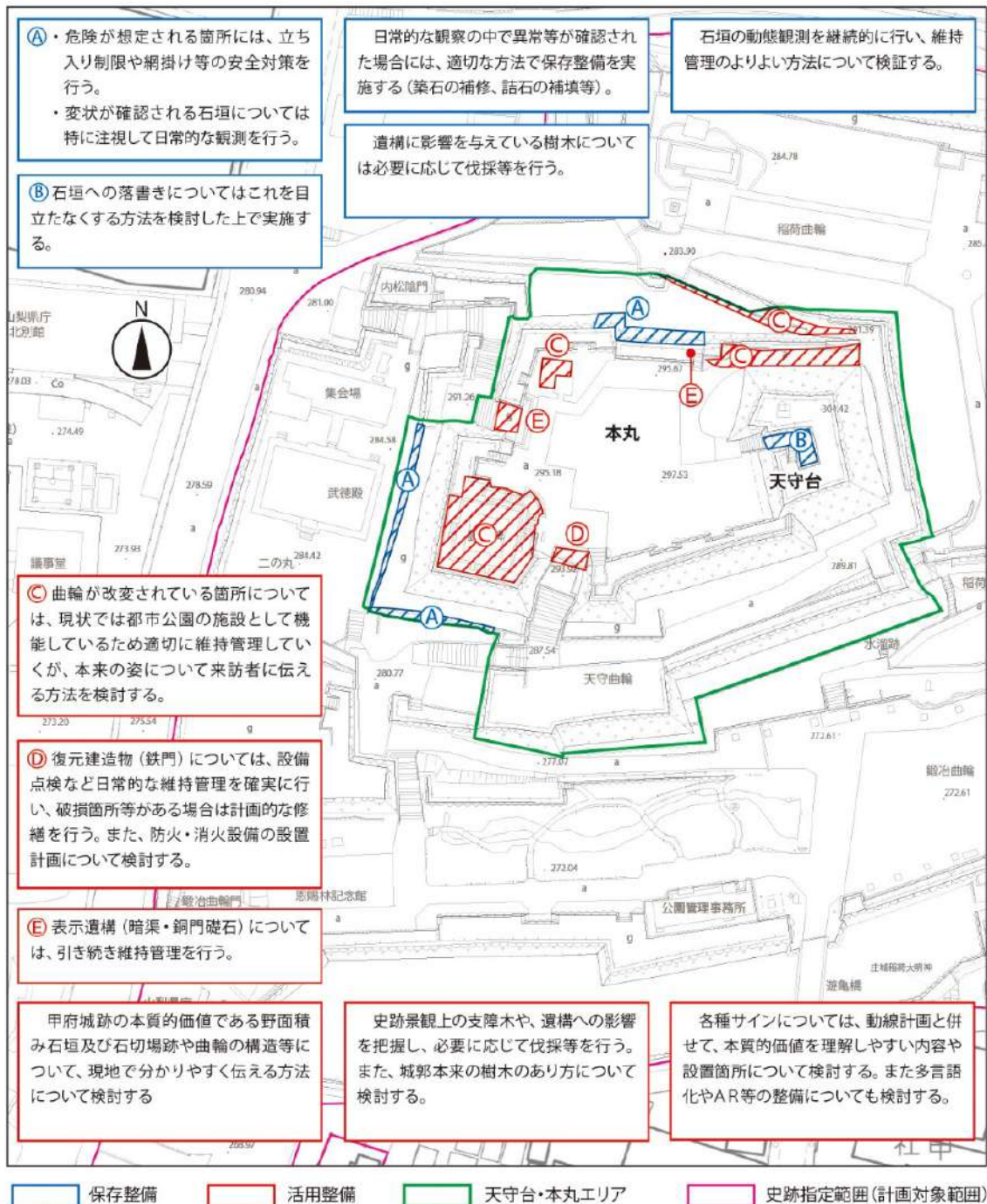


- : 史跡指定範囲
- : 武家地 (E-1)
- : 見附
- : 周知の埋蔵文化財包蔵地甲府城跡
- : 堀
- : 町人地 (E-2)
- : 寺社地
- : 周知の埋蔵文化財包蔵地甲府城下町遺跡
- : 周知の埋蔵文化財包蔵地武田城下町遺跡
- : 土塁

ゾーニング図2 (広域)
 (計画対象範囲は、史跡指定範囲)

整備方針・主な整備内容

- ・遺構の保存整備を最優先する。
- ・本地区は史跡としての重要度が高いため、縄張り形態の保全・価値の顕在化の観点から整備のあり方について検討する。
- ・縄張りの最頂部に位置することから、眺望を活かした活用整備を進める。また来訪者の利便性を向上させる活用整備を行う。

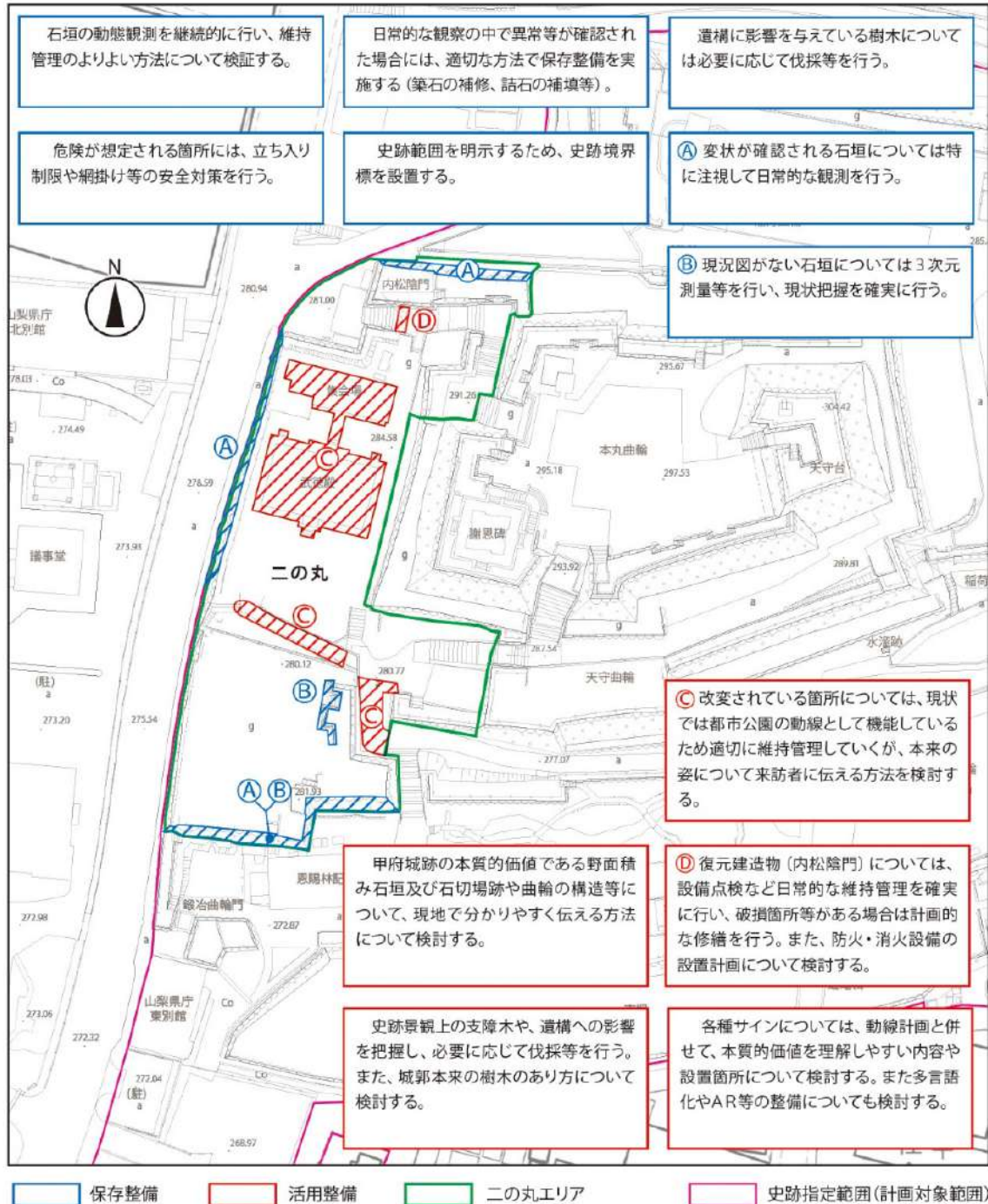


地区別整備方針(天守台・本丸)

地区		整備方針・主な整備内容
指定地内	城郭	<p>A① 天守台・本丸</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにする。 ・本地区は史跡としての重要度が高いため、縄張り形態の保全・価値の顕在化の観点から整備のあり方について検討する。 ・縄張りの最頂部に位置することから、眺望を活かした活用整備を進める。また来訪者の利便性を向上させる活用整備を行う。
		<p>【調査】</p> <p>曲輪の配置や構造、築城過程を明らかにするための調査研究を行う。</p> <p>【保存整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣の動態観測を継続的に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する（築石の補修、詰石の補填等）。 ・遺構に影響を与えている樹木については必要に応じて伐採等を行う。 ・石垣への落書きについてはこれを目立たなくする方法を検討した上で実施する。 <p>【活用整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡の本質的価値である野面積み石垣及び石切場跡、曲輪の構造等について、現地で分かりやすく伝える方法について検討する。 ・埋設保存されている遺構（石切場跡等）について、調査研究を進めるとともに、史跡本来の姿を顕在化させる整備の方法について検討する。 ・曲輪が改変されている箇所については、現状では都市公園の動線として機能しているため適切に維持管理していくが、本来の姿について来訪者に伝える方法を検討する。 ・復元建造物（鉄門）については、設備点検など日常的な維持管理を確実にを行い、破損箇所等がある場合は計画的な修繕を行う。また、防火・消火設備の設置計画について検討する。 ・表示遺構（暗渠・銅門礎石）については、引き続き維持管理を行う。 ・史跡景観上の支障木や、遺構への影響を把握し、必要に応じて伐採等を行う。また、城郭本来の樹木のあり方について検討する。 ・各種サインについては、動線計画と併せて、本質的価値を理解しやすい内容や設置箇所について検討する。また多言語化やAR等の整備についても検討する。

整備方針・主な整備内容

- ・遺構の保存整備を最優先する。
- ・曲輪西側は舞鶴通りに分断されており、現状ではこの状態を維持せざるを得ないが、本地区は史跡としての重要度が高いため、本来の姿について来訪者に伝える方法を検討する。

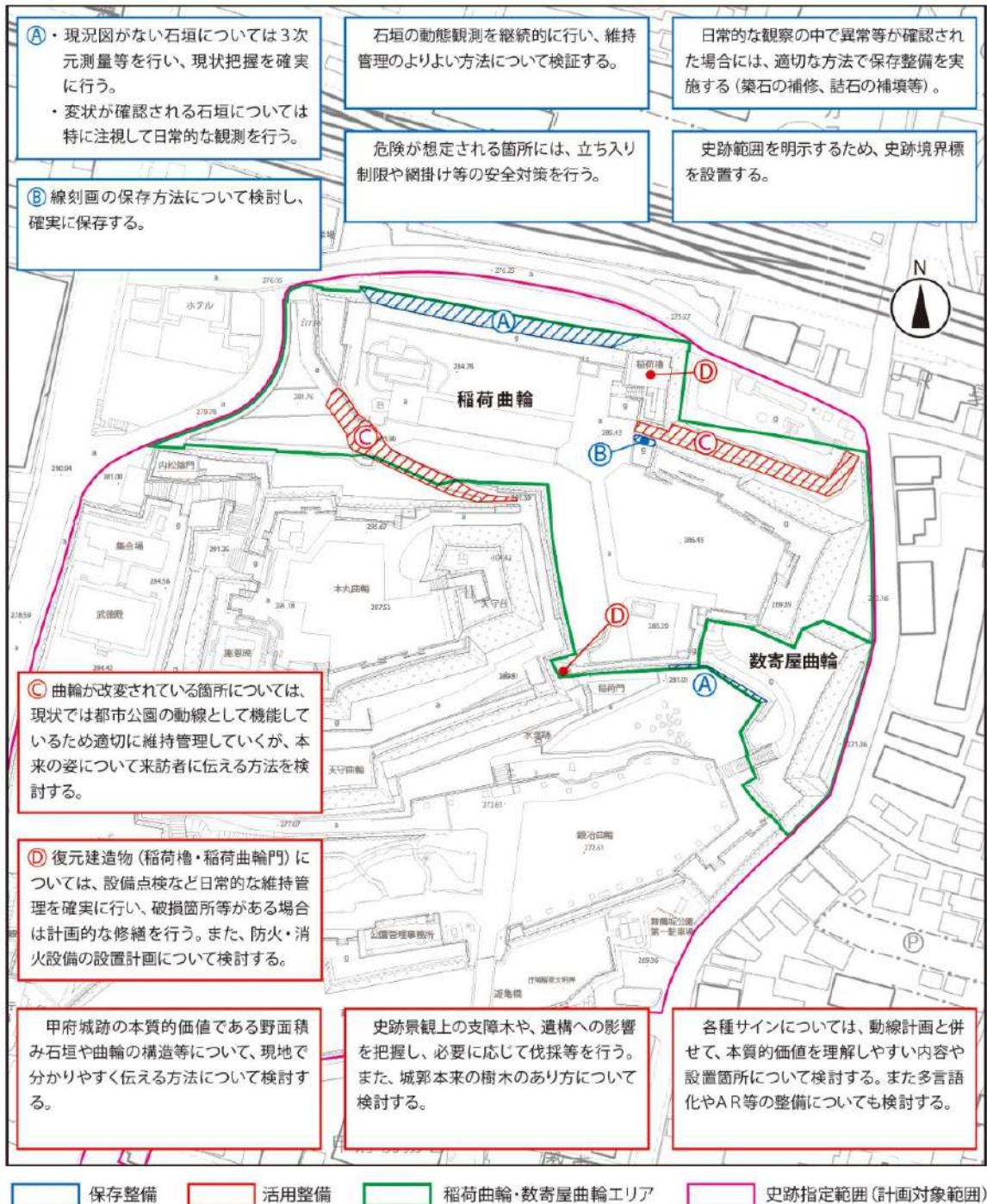


地区別整備方針(二の丸)

地区		整備方針・主な整備内容
指定地内	城郭	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにする。 ・曲輪西側は舞鶴通りに分断されており、現状ではこの状態を維持せざるを得ないが、本地区は史跡としての重要度が高い。ただし、本地区は積極的に公開されている場所ではないため、公開の方法を検討する中で、本来の姿について来訪者に伝える方法を検討する。
		<p>【調査】 曲輪の配置や構造、築城過程を明らかにするための調査研究を行う。</p> <p>【保存整備】 <ul style="list-style-type: none"> ・石垣の動態観測を継続的に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する（築石の補修、詰石の補填等）。 ・遺構に影響を与えている樹木については必要に応じて伐採等を行う。 ・危険が想定される箇所には、立ち入り制限や網掛け等の安全対策を行う。 ・現況図がない石垣については3次元測量等を行い、現状把握を確実に行う。 </p> <p>【活用整備】 <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡の本質的価値である野面積み石垣や曲輪の構造等について、現地で分かりやすく伝える方法について検討する。 ・埋設保存されている遺構について、調査研究を進めるとともに、史跡本来の姿を顕在化させる整備の方法について検討する。 ・曲輪が改変されている箇所については、現状では都市公園の動線として機能しているため適切に維持管理していくが、本来の姿について来訪者に伝える方法を検討する。 ・史跡範囲を明示するため、史跡境界標を設置する。 ・復元建造物（内松陰門）や修景施設（漆喰塀等）については、設備点検など日常的な維持管理を確実にを行い、破損箇所等がある場合は計画的な修繕を行う。また、防火・消火設備の設置計画について検討する。 ・史跡景観上の支障木や、遺構への影響を把握し、必要に応じて伐採等を行う。また、城郭本来の樹木のあり方について検討する。 ・各種サインについては、動線計画と併せて、本質的価値を理解しやすい内容や設置箇所について検討する。また多言語化やAR等の整備についても検討する。 </p>

整備方針・主な整備内容

・遺構の保存整備を最優先する。



地区別整備方針（稲荷曲輪・数寄屋曲輪）

地区		整備方針・主な整備内容
指定地内	城郭	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにする。
		<p>【調査】 曲輪の配置や構造、築城過程を明らかにするための調査研究を行う。</p>
		<p>【保存整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣の動態観測を継続的に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する（築石の補修、詰石の補填等）。 ・危険が想定される箇所には、立ち入り制限や網掛け等の安全対策を行う。 ・現況図がない石垣については3次元測量等を行い、現状把握を確実にを行う。 ・線刻画の保存方法について検討し、確実に保存する。
		<p>【活用整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡の本質的価値である野面積み石垣や曲輪の構造等について、現地で分かりやすく伝える方法について検討する。 ・埋設保存されている遺構について、調査研究を進めるとともに、史跡本来の姿を顕在化させる整備の方法について検討する。 ・曲輪が改変されている箇所については、現状では都市公園の動線として機能しているため適切に維持管理していくが、本来の姿について来訪者に伝える方法を検討する。 ・史跡範囲を明示するため、史跡境界標を設置する。 ・復元建造物（稲荷櫓・稲荷曲輪門）については、設備点検など日常的な維持管理を確実にし、破損箇所等がある場合は計画的な修繕を行う。また、防火・消火設備の設置計画について検討する。 ・史跡景観上の支障木や、遺構への影響を把握し、必要に応じて伐採等を行う。また、城郭本来の樹木のあり方について検討する。 ・各種サインについては、動線計画と併せて、本質的価値を理解しやすい内容や設置箇所について検討する。また多言語化やAR等の整備についても検討する。
	A③ 稲荷曲輪	

地区		整備方針・主な整備内容
指定地内	城郭	A④ 数寄屋曲輪
		<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにする。
		<p>【調査】</p> <p>曲輪の配置や構造、築城過程を明らかにするための調査研究を行う。</p>
		<p>【保存整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣の動態観測を継続的に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する（築石の補修、詰石の補填等）。 ・危険が想定される箇所には、立ち入り制限や網掛け等の安全対策を行う。 ・現況図がない石垣については3次元測量等を行い、現状把握を確実にを行う。
		<p>【活用整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡の本質的価値である野面積み石垣及び石切場跡、曲輪の構造等について、現地で分かりやすく伝える方法について検討する。 ・埋設保存されている遺構（石切場跡等）について、調査研究を進めるとともに、史跡本来の姿を顕在化させる整備の方法について検討する。 ・史跡範囲を明示するため、史跡境界標を設置する。 ・各種サインについては、動線計画と併せて、本質的価値を理解しやすい内容や設置箇所について検討する。また多言語化やAR等の整備についても検討する。

整備方針・主な整備内容

- ・遺構の保存整備を最優先する。
- ・史跡景観の維持・向上をはかる。
- ・鍛冶曲輪 曲輪の配置や構造、築城過程を明らかにするための調査研究を行う。
- ・埋め立てられた堀 土地所有者の理解・協力を得て、史跡景観の復元を行う。
- ・水堀、埋め立てられた堀は城の重要な要素の一つである大手門に隣接し、史跡の特徴（階層的な曲輪・石垣・水堀等）を最も視覚的に体感できる場所のひとつであることから、史跡の本質的価値を来訪者に伝える整備を行う。

【調査】

堀の構造等を明らかにするための調査研究を行う。



地区別整備方針（鍛冶曲輪・水堀・埋め立てられた堀）

地区		整備方針・主な整備内容
指定地内	城郭	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにする。
		<p>【調査】 曲輪の配置や構造、築城過程を明らかにするための調査研究を行う。</p>
		<p>【保存整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣の動態観測を継続的に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する（築石の補修、詰石の補填等）。 ・危険が想定される箇所には、立ち入り制限や網掛け等の安全対策を行う。 ・現況図がない石垣については3次元測量等を行い、現状把握を確実にを行う。
		<p>A⑤ 鍛冶曲輪</p> <p>【活用整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡の本質的価値である野面積み石垣及び石切場跡、曲輪の構造等について、現地で分かりやすく伝える方法について検討する。 ・改変された箇所については、史跡本来の姿を顕在化させる整備の方法について検討する。 ・埋設保存されている遺構（石切場跡、米蔵跡、勘定所跡等）について、調査研究を進めるとともに、史跡本来の姿を顕在化させる整備の方法について検討する。 ・史跡範囲を明示するため、史跡境界標を設置する。 ・復元建造物（鍛冶曲輪門）については、設備点検など日常的な維持管理を確実にを行い、破損箇所等がある場合は計画的な修繕を行う。また、防火・消火設備の設置計画について検討する。 ・各種サインについては、動線計画と併せて、本質的価値を理解しやすい内容や設置箇所について検討する。また多言語化やAR等の整備についても検討する。

地区			整備方針・主な整備内容
指定地内	城郭	B① 水堀	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・日常管理を適切に行う。 ・本地区は城の重要な要素の一つである大手門に隣接し、史跡の特徴（階層的な曲輪・石垣・水堀等）を最も視覚的に体感できる場所のひとつであることから、史跡の本質的価値を来訪者に伝える整備を行う。 ・史跡景観の維持・向上をはかる。
			<p>【調査】</p> <p>堀の構造等を明らかにするための調査研究を行う。</p>
			<p>【保存整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常管理を適切に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する。
			<p>【活用整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改変されている箇所については、現状では都市公園の動線として機能しているため適切に維持管理していくが、本来の姿について来訪者に伝える方法を検討する。 ・各種サインについては、動線計画と併せて、本質的価値を理解しやすい内容や設置箇所について検討する。また多言語化やAR等の整備についても検討する。

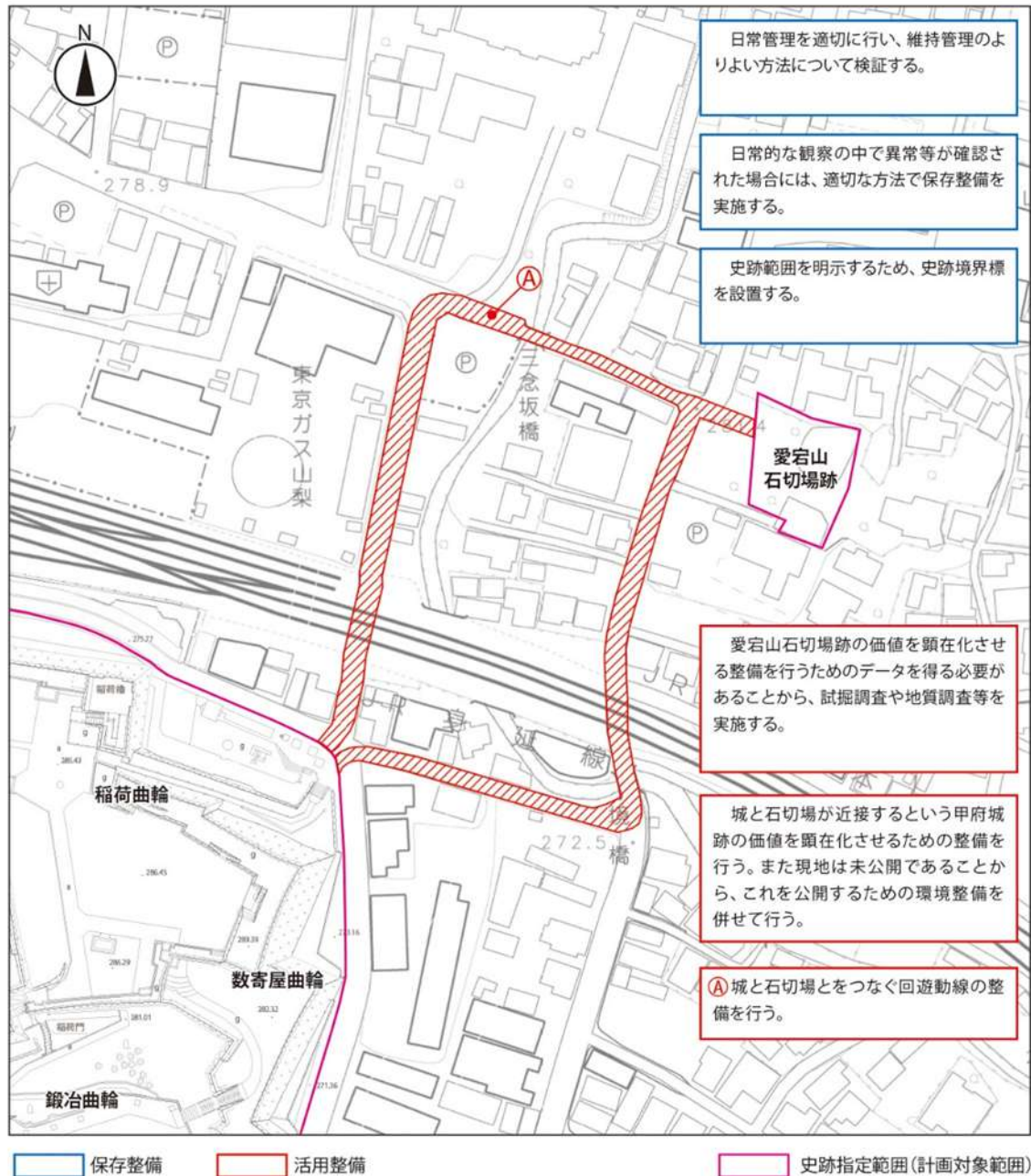
地区			整備方針・主な整備内容
指定地内	城郭	B② 堀跡	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにし、それらを顕在化させる整備を行う。 ・土地所有者の理解・協力を得て、史跡景観の復元を行う。 ・本地区は城の重要な要素の一つである大手門に隣接し、史跡の特徴（階層的な曲輪・石垣・水堀等）を最も視覚的に体感できる場所のひとつであることから、史跡の本質的価値を来訪者に伝える整備を行う。 ・史跡景観の向上をはかる。
			<p>【調査】</p> <p>堀の構造等を明らかにするための調査研究を行う。</p>
			<p>【保存整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常管理を適切に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する。
			<p>【活用整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋設保存されている遺構についても調査研究を進めた上で、史跡景観を復元し、本質的価値を来訪者に伝える整備を行う。 ・史跡の特徴（階層的な曲輪・石垣・水堀等）を最も視覚的に体感できる場所のひとつであることから、堀の石垣を復元整備するなど史跡景観を復元していくとともに視点場の整備を行う。 ・地下遺構に留意しながら、利用者に心地よい憩いの場を提供するための環境整備を行う。 ・各種サインについては、動線計画と併せて、本質的価値を理解しやすい内容や設置箇所について検討する。また多言語化やAR等の整備についても検討する。

整備方針・主な整備内容

- ・ 遺構の保存整備を最優先する。
- ・ 計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにし、それらを顕在化させる整備を行う。
- ・ 土地所有者の理解・協力を得て、史跡景観の復元を行う。
- ・ 地区の公開に向けた環境整備や動線整備を行う。

【調査】

石切場跡の範囲や、石切の過程を明らかにするための調査研究を行う。



地区別整備方針(愛宕山石切場跡)

地区		整備方針・主な整備内容	
指定地内	石切場	C 愛宕山石切場	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の保存整備を最優先する。 ・計画的な発掘調査等を行い、史跡の価値を明らかにし、それらを顕在化させる整備を行う。 ・土地所有者の理解・協力を得て、史跡景観の復元を行う。 ・地区の公開に向けた環境整備や動線整備を行う。
			<p>【調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石切場跡の範囲や、石切の過程を明らかにするための調査研究を行う。
			<p>【保存整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常管理を適切に行い、維持管理のよりよい方法について検証する。 ・日常的な観察の中で異常等が確認された場合には、適切な方法で保存整備を実施する。
			<p>【活用整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛宕山石切場跡の価値を顕在化するため、埋設保存されている遺構についても調査研究を進めた上で、史跡の本質的価値を来訪者に伝える整備を行う。 ・城と石切場が近接するという甲府城跡の価値を顕在化させるため、現在は未公開の愛宕山石切場跡を公開するための環境整備等を行う。

地区		整備方針・主な整備内容
指定地外	武家地 町人地	E①② 武家地 町人地
		<ul style="list-style-type: none"> ・遺構を確実に保存する。 ・関連する城郭遺構等の顕在化について、関係者と協議していく。 ・土地所有者の理解・協力を得ながら、追加指定について関係者と協議していく。 ・史跡景観保護に関する方向性について検討していく。 ・史跡と周辺の回遊動線について検討していく。 ・総合的なガイダンス機能の拡充について検討し、史跡とその周辺の整備とともに一体的な整備を行う。
		<p>【調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地「甲府城跡」「甲府城下町遺跡」として、必要に応じた調査を行う。
		<p>【保存】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲輪や堀、門跡など、遺構等の価値や史跡指定に係る諸条件について整理した上で、追加指定について関係者と協議していく。 ・景観計画など関連計画の中で、史跡景観の保護に関する方向性について検討していく。
		<p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一帯は、近代に大規模な改変を受けており、県庁施設や鉄道関連施設、店舗等が立ち並び、市街地化によりかつての姿が失われているため、城域や城郭遺構等の顕在化について関係者と協議していく。 ・史跡である甲府城跡や愛宕山石切場跡と史跡指定地外の城郭範囲や城下町などを回遊しやすいよう動線のあり方について検討する。 ・動線計画とともに史跡周辺の解説板・案内看板・誘導標識の内容や設置箇所について関係者と協議していく。

第2節 保存整備に関する計画

甲府城跡は、曲輪を階層的に配置する縄張りや野面積み石垣が良好な形でのこされ、今もそのすがたを伝えていることが大きな特徴であり、本質的価値とされている。史跡整備を進めるにあたっては、このような城郭構造を維持することが必要となるが、このためには、まずは遺構の確実な保存と復旧が前提となる。

例えば、何らかの原因で遺構が損壊すれば、史跡の本質的価値の保存に悪影響を及ぼすほか、来訪者に危険が及ぶおそれもあることから、日常的な維持管理等の中で確認された変状については、迅速に必要な対処を行わなければならない。このほか、各種遺構の保存修理を行うにあたっては、これに不可欠である調査研究等を行う中で、中長期的なビジョンをもった上で計画的に取り組んでいく必要がある。

ここでは、史跡甲府城跡の価値を有する要素の確実な保存と適切な修復を目的とした保存整備の基本方針を以下に示す。

【遺構保存】

- 適切な遺構保存方法を検討し、現状保存を原則とした保存を行うこと
- 曲輪、石垣、礎石、堀等の地上遺構については、その性質に応じて、適切な保存措置及び環境の改善を行うこと
- 地下遺構については、露出展示等を行う場合を除き、原則として地下に埋蔵された状態を維持すること
- 史跡保護のため、史跡指定地の範囲を現地で表示する必要があることから、史跡境界標を設置すること

【復旧（修理）】

- 日常的な観察（概況把握）を確実にを行い、不測のき損を防ぐとともに、き損や劣化等が確認された場合は、その原因を究明し、本質的価値を失うことのないよう旧状に復すること
- 史跡甲府城跡の価値とは直接的な関係がなく、史跡景観上その影響が見られる要素については、現位置での必要性を検証し関係者と調整のうえ、移転等の取扱いについて、個別に検討すること

【追加指定】

- 甲府城跡の内城域や内堀の範囲は、史跡指定地外にも存在することを踏まえ、関係者に対する理解や協力を求め、追加指定等を行うなどして適切な保存を推進すること

1. 遺構保存

(1) 地上遺構

定期的な遺構観察により、現況を把握するとともに、日常的な維持管理を適切に行う必要がある。これによりなるべく早い段階で危険を察知することや、自然災害等に対する予防策を立てることが可能となる。もし、き損が発生した場合には迅速かつ適切な対応をとり、遺構の保存につとめる。

1) 曲輪・堀

甲府城跡は、独立丘陵である一条小山を主体として築かれた平山城である。天守台、本丸、人質曲輪、天守曲輪、帯曲輪、二の丸の一部、稲荷曲輪、数寄屋曲輪、鍛冶曲輪は現存している。これら造成地形を維持するためには、雨水排水処理を適切に行い、必要に応じて生育する樹木の伐採を行う必要がある。

また、今後は、指定地外に広がる内城域や内堀の範囲についても、追加指定等を行うなどして適切な保存を推進していく必要がある。

■雨水排水処理

甲府城跡は、独立丘陵である一条小山を主体としているため、もとの地山を切土・盛土して曲輪を作り出している。地形を造成するにあたっては、自然な水の流れを強制的に変えざるを得ないが、地形を維持するためには、この排水のコントロールが重要となる。このため、甲府城跡も、地形的に排水の課題がある箇所には特に、石垣の水抜き穴や暗渠が設置されていることが見て取れる。このように甲府城跡には、ある程度適切な排水システムが確立されていることから、長きにわたり本質的価値である、この曲輪構造を維持してきたと言える。

基本的には、この築造当初のシステムを維持していくが、近年、集中豪雨等の異常気象が多発していることもあるため、過去に崩落が見られた箇所や、このシステムに機能不全が見られる箇所については特に注視することとする。

■支障木の伐採

遺構を確実に保存し、その姿を顕在化させるためには、曲輪の上面・表面・基部に叢生する雑草・実成木の除去、植栽樹木の適切な管理を行う必要がある。特に石垣の上面や基部には、樹木が植栽されている箇所もあり、それが長い年月の間に石垣の安定性に悪影響を及ぼしているものも見られることから、日常的な観察の中での適切な処置も必要となる。一方、甲府城跡は都市公園でもあり、樹木は、来訪者にとって快適な環境づくりを担う側面も持つことから、それらの役割にも留意する。

■立ち入り禁止区域の設定

曲輪等の適切な保存と地震等による突発的な自然災害に備えるとともに、来訪者の安全

を確保するため、崩落の恐れがある石垣周辺への立ち入りを禁止し、万が一に備える必要がある。架設バリケードの設置により立ち入り禁止区域を明確にするほか、景観面を配慮し植栽帯を設ける。影響範囲を想定するにあたっては、石垣の規模や立地等を十分に考慮する必要がある。

2) 石垣

石垣は、各曲輪の縄張りを構築するものとして、甲府城跡の本質的価値の根幹を成す重要な遺構である。よって、これらを本来の姿で確実に保存していくことが必要となる。この保存のためには、石垣という遺構の性格上、「歴史の証拠としての価値」と「安定した構造体」の両者を念頭に置く必要がある。

石垣の本質的価値を確実に保存するためには、以下の方針に基づいた整備を行う事とする。

石垣保存管理の基本方針

【保存】

- 石垣の本質的価値を確実に保存する
- オリジナルの石垣を最大限残す
- 表面だけでなく、構造体（積石・裏込・盛土）として調和・安定した状態を維持し、立体的な文化財として扱う
- 構築・加工技術を伝承する

【管理】

- 日常的な維持管理を行い、異常等が確認された場合には、原因究明を行い、改善する
- 日常的な観察により現況を把握し、不測のき損を防ぐ
- 石垣カルテ（3次元測量）の追加・更新を継続することで、各石垣の変位変状や破損、修理履歴などを一元的に管理する。
- 石積技術・考古学・歴史学・民俗学・建築史学・土木工学・地質学等、関連分野の調査研究を進める

■石垣維持管理

石垣の保存には、まずは日常的な観察（現況把握）を行い、不測のき損を防ぐことが必要である。また、日常的な維持管理として、清掃・樹木管理・石材管理・排水管理を行い、異常等があれば原因を究明し、改善することが必要である。

① 石垣カルテの追加・更新

日常的な観察（現況把握）と日常的な維持管理で得られた情報 — すなわち、個々の石垣の現状と破損・変状や、それらに対する所見・対処方法など — は、石垣カルテに記載することによりデータを蓄積していき、修理等の際の基礎資料とする。これは、短期間で仕上げることが困難であり、日常的な作業の積み重ねにより情報が集約されていくものである。また、変状等の情報だけでなく、築造時期・改修時期や各時代の意匠や技術的な特徴などを総合的に把握する上でも有効である。なお、石垣に関する情報の適切な管理を行う中で、新たな視点のもとに情報を段階的に書き加えていき、情報を一元化することが大切である。

② 見回り・清掃

石垣及び周辺の景観を常に清潔・整頓された状態に維持することは、城跡の存在を印象付け、来訪者が親しみやすい環境づくりをする上で必要不可欠である。また、石垣周辺に限定することなく、城跡のエリア全体においても、日常的な見回りや清掃を行う。

③ 石材管理

石垣を構成する個々の石材や、改修後に再利用せずに保管した石材の管理を行う。個々の石材が雑草・蘚苔類・地衣類等により劣化していないか、割れ等を生じるなど顕著な劣化・風化が進んでいないか、落書き等によるき損が生じていないか確認し、状況を常に把握しておくこととする。

④ 石垣の点検調査と変状評価

石垣の長期にわたる建造物の安定と状態の保存を目的とした点検を実施する必要がある。甲府城跡では、平成 27 年度（2015）から石垣維持管理事業としてこれを実施している。点検及び調査の概要は以下のとおりである。

まず、一次点検により、「変状発生の有無」及び「立地条件等における危険度」を外観目視により確認し、特に危険度が高いと思われる変状（孕み出し、隙間、クラック）に対しては、発生変状の「量」とその時系列での「変動」を捉えることが重要であることから、計測器を設置した定点観測を実施している。また、年度毎の計画に基づき、二次点検として、近接目視による変状の観察、打音（タタキ）検査による変状度合の確認等を実施し、詰め石・築石を対象とした軽微な補修作業を実施している。

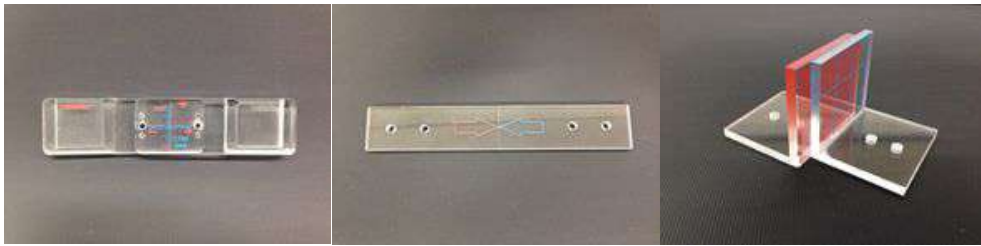
今後もこれら点検調査と変状評価を継続して行うことでデータを蓄積し、併せてよりよい現状把握の方法についても検討していくこととする。



第〇図 一次点検



第〇図 二次点検



第〇図 ゲージⅠ型

第〇図 ゲージⅡ型

第〇図 ゲージⅢ型



第〇図 ゲージ計測の様子



第〇図 傾斜計測定の様子



第〇図 打音検査



第〇図 二次点検の様子

⑤ 基礎資料（測量図）の作成

石垣の現状把握や保存修理方針の検討には、オルソ画像・立面図・縦横図・横断図等の測量図が必要不可欠である。これら基礎資料は、石垣構築技術や改修履歴等、今後の石垣の調査研究にも有効な資料となるだけでなく、3次元測量を活用した変位の可視化や変状による安定性を評価する際にも有効である。石垣の現状把握のためには、このような基礎資料を基に、行政の文化財担当者の日常的な観察を加えていくことが必要となる。

以上により、現況図がない石垣については3次元測量を行い、現状把握を確実に行うこととする。

■石垣への落書き防止措置

甲府城跡の石垣に対する落書き行為は、史跡の価値を下げるだけでなく、都市公園である舞鶴城公園への来訪者を不快な気分にするなど大きな問題となっている。甲府城跡の場合は、天守台穴蔵など人目につきにくい場所の、下から1～1.7m程の書きやすい場所に見られ、傷質は手近の石で引っかいて書いたものが多い。ほとんどは一本線で書かれたもので、傷の深さは1mm未満である。なお、インク等による落書きは石垣には見られない。

過去には、文化財を大切にすることを育み、落書き抑止効果を目的として、子供達との落書き消しボランティア作業などの実施や、注意看板の設置等を行ってきた。これら経緯からは、一度きれいにするとしばらくは抑止効果が期待できるため、今後は、石垣に影響を与えずに、落書きを目立たなくする手法について検討し実施する。加えて、文化財の価値を理解してもらい、石垣を大事なものと認識してもらう機会を積極的に用意していく必要がある。

■石垣の線刻画の保護

甲府城跡の築城期の石垣石材や詰め石などには、細い線画が見られることがある。本丸などの石切場跡や解体した石垣背面側の表面などにも描かれており、井桁や一筆書きの星印、魚や鳥などが見られるが、陰陽道の呪符に類似する記号が多いことから、築城当時に地鎮的な意味で描かれたものとも考えられている。稲荷櫓付近では、石垣表面でも確認することができるが、線が細く、直射日光や風雨にさらされ劣化が見られることから、これらを確実に保存する方法について検討し実施する。

（2）地下遺構

曲輪や石垣、堀など地上に露出している遺構以外に、地下に埋蔵されている遺構としては、石段跡、石切場跡、礎石、暗渠などがある。これら遺構については、盛土保存されており、現状では、遺構面に直接的な損傷を受けるような状況にはない。しかしながら、近年多く見られるゲリラ豪雨等により、雨水排水の停留などが生じる可能性もあり、今後も引き続き、定期的な観察を行い、現状の把握に努めていく。

2. 遺構修復

(1) 曲輪・堀

甲府城跡は、もとの地形を造成して構築されており、この造成地形の維持には雨水排水処理が要となる。水の流れが集中する箇所には石垣面に水抜き穴を設けるなどの対処がみられるが、歴史的には本丸北側や天守曲輪南側で崩壊があったことが確認されている。現在、崩壊箇所等は確認されていないが、今後、万が一遺構の崩壊等が生じて造形地形に変状をきたした場合には、原則として崩壊前の形に修復することとする。ただし、安定した構造に保つことが困難な場合には勾配を緩くする等、安定した構造で修復することも視野に入れる。

1) 石垣

石垣保存修理は、石垣カルテによる観察のもと、現状に即した多様な修理の方法（現状保存・部分補修・部分補強・解体修理など）から適切な修理方針を立て、その優先順位を検討する必要がある。保存修理にあたっては、行政組織の体制整備を確立し、文化庁や有識者の指導助言を受け、山梨県の担当部局や関係部局との合意形成を図るとともに、県民の理解や協力を得るべく幅広い周知が必要となる。

石垣修理の基本方針

- 旧材を使い、在来工法で修理する
- 旧材を原位置から動かさないようにし、動かした場合は原位置に戻す
- 旧材（旧石材）の加工はしない
- 新補材は安山岩とし、外観上及び強度面でオリジナルと遜色ないものとする
- 現存する石垣が積まれた時期の積み方に戻す修理を行う

■石垣修復の考え方

石垣という本質的価値を、次世代へ確実に伝えていくためには、日常的な維持管理を適切に行うとともに、石垣の現況を把握した上で観察を行い、変位変状を捉えた際には、それを復旧するための迅速な対応（修理）が必要である。石垣の築造時期や状態等から、以下のように修復の考え方を示す。

① 江戸期に築かれ現在も健全な石垣

適切な管理により良好な保存環境を保ち、保存していく。

② 近代に改変された健全な石垣

保存・活用の観点から取り扱い（現状維持または修復）について検討する。現状を維持する場合は、来訪者の誤解を招かないよう、改変された箇所については現地で説明を加える。

③ 積み直しを行っているが復元的整備でない石垣

現状維持を基本とし適切に管理するが、周囲の景観と調和していない箇所については、積み替えを行うことも検討する。

④ 一部が変状した石垣

変状が生じている石垣については、動態観測を行い変状の度合いを注意深く観察する。変状の進行が認められず崩壊の危険性が低い場合は、適切な管理により現状維持に努める。変状の進行が認められる場合には、必要に応じて石垣表面をナイロン製のネットで覆うなど石垣の保護をはかる。

⑤ 地形の保全や活用上の観点から新たに築かれた石垣

保存・活用の観点から取り扱い（現状維持または修復）について検討する。平成2年度以降の公園整備事業に伴い土留めの目的で設置されたものであることから、来訪者の誤解を招かないよう、改変された箇所については現地で説明を加える。